のり加工作業の効率性・快適性・安全性確保に向けての取り組み
―そして継続は力となった―

鬼崎漁業協同組合婦人部
部　長　　中山　三四

1　地域の概況

常滑市は人口約５２，０００人で知多半島西海岸中央部に位置し伊勢湾に面して、市街地が形成されており、昔から窯業が盛んで日本六古窯の一つでもあります。産業は窯業が基幹産業ですが、農業・漁業も盛んに営まれております。近年は中部国際空港の建設で注目されております。

その中で当鬼崎地区は、市内でも北部にあり北より西之口、蒲池、榎戸、多屋の４地区からなっております。鉄工業、農業、漁業が盛んな地区です。地区の特色として漁業経営世帯が市内でも最も多い地区であり、古くから打たせ網漁等の漁業が盛んに営まれております。

2　漁業の概況

漁業は鬼崎漁業協同組合を中心に活動しており、組合員は正組合員１９０名、準組合員３２名で計２２２名です。漁業経営は伊勢湾を漁場とした沿岸漁業を営んでおり、主な漁業種類は海苔養殖業９３、小型底引網７１、刺し網３６、つり３６、その他漁業１５の経営体があります。

海苔養殖業は１０月から３月まで行われ、約８割の漁家が営んでおり、例年９，０００万枚以上の生産を誇りこれは県下の約１２％程度の生産になっております。また海苔の平均単価は１枚約１２円ぐらいとなっており県下でも１・２位の位置ににあります。私たちが生産している海苔は質及び量共に優れたものであり、市場でも信頼の高い評価を得ています。

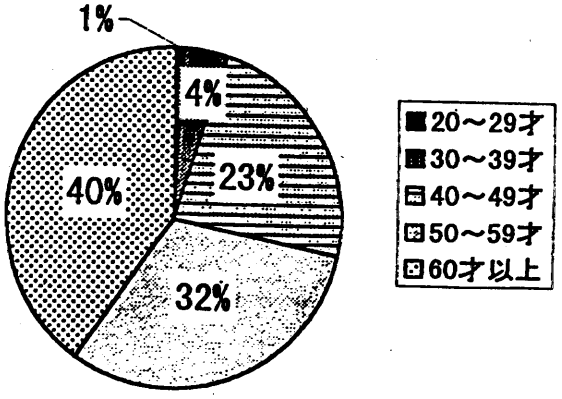

図１　婦人部年齢割合

３　婦人部活動の組織と運営

私達の婦人部は昭和３３年に発足しました。部員は１２６名です。部長以下１３名の役員で構成されております。主な活動内容は、海浜清掃、天然石鹸の普及、貯蓄推進活動、魚食普及、骨粗しょう症対策、婦人病検診です。

部員の年齢構成をみてみると図１のとおり４０代が２３％、５０代が３２％、６０代以上が４０％を占めて、１０年前は、５０代が４０％でした。高齢化がすすんでおりますが、後継者も育ちつつあります。

４　研究・実践活動課題選定の動機

近年、女性労働力が漁業生産活動において重要な役割を担うようになりました。婦人部のアンケート調査結果から、図２のように漁業にたずさわる、就労日数の割合をみてみると、２００日以上が全体の６５％以上を占めています。そのうち図３のように現在では、夏は採貝漁が主力になり、女性も一緒に沖にでるようになり担い手としての負担が増しました。

冬場は、のり養殖業が９０％をしめており、のり加工作業は、女性の仕事となっています。私達婦人部は、１０年前にもモデルグループの指定を受け、以来継続して取り組んできた「のり加工作業の安全をめざして」の現状について、アンケート調査をして対応策を考えて、より効率・快適・安全性について研究し発表することにしました。

５　実践活動状況及び成果

（１）のり作業の実態

のり作業時期の生活と作業状況について実態を１０年前と比較してみることにしました。その結果は、次の図の通りです。

図４　１日平均の労働時間は、１０時間以上が５６％、８時間から９時間が３１％、８時間以下がわずか１％で　９時間から１１時間が増加していますが、これは近年の作数の増加摘採方法の変化により単時間で枚数が摘め、機械の大型化が進んでいるものの生産枚数が増えたため、労働時間が増加し過重労働状態となっています。

図５　特に疲れる身体的部位をきいたところ図５のように腰、肩、ひざ、目、手首、足首となっていて、その原因は、長時間同一作業のためと考えられました。

図６　のり作業のうち作業場での「のり漉き作業」の担当者は婦人部員が８８％と殆どを占めて図５で述べましたように腰、肩、ひざに負担がきているようでした。

１０年間（平成元年～現在）でのり作業中にケガをしたことのある割合は、２３％でした。加齢とともに年々増加していることが伺われました。その内容と部位をみてみると、

図８のように、けがの部位は一位が切り傷で、２位が、ベルト等に挟まれる。３位は骨折の順位でした。

図９のように部位は、一位は指が多く１２名でついで手、足、肋骨の順序でした。

発生時の状況は、一位は機械を洗っている時、のり切り機で指を切る。２位は、ベルトに指を挟まれるでした。手のケガが多いのは、作動中の機械にふれたりする一瞬の気のゆるみが原因と思われます。

このような実態調査結果を参考にして解決方法について役員会で話し合いまとめてみました。

・よそ事を考えながら仕事をしない。

・機械に異状があった時はまず止める。
・機械が動いているところへは絶対手を入れない。
・あわてないで仕事にかかる。
・明るい気持ちで、全員が作業する。
・声をかけてからスイッチを押す。
・エプロン等、機械に巻き込まれそうになものは、身につけない。
・足元を片づける。
・機械の異常音、臭気、熱に気をつける。
・作業場に入ったら、のり作業の事だけ考える。

のり作業の中に事故防止の方法として、初期の対策が最も重要と考えその対応策を部員に徹底しました。

（２）のり作業の確認事項表の作成

先に述べましたように後継者ある家もありますが、のり加工作業は主に女性の仕事となっています。部員の中には６０歳代でも現役の人も多く、複雑化した機械の装置に馴染めず苦労していますが、毎日の仕事として事故なく効率的にかつ安全に作業したいと次のような事項を徹底させました。

☆安全作業の三要素として知識・技術・実行

ア　機械の安全操作として事前チェックと正しい操作
・スイッチを入れる前の機械の安全確認
・作業開始前の合い言葉　安全確認よし。スイッチよし。と言葉を掛ける。
・作業場の整理整頓に心掛ける。

イ　作業装備として専用の作業着を着用する。

ウ　無理な働きかたをしない
・万全な体調と一日８時間を労働時間の目安とする。

これを印刷して作業場のよくみえる場所に掲げ啓蒙につとめました。その結果、今年度ののり作業中のケガは、ありませんでした。モデルグループ活動の成果があったと思います。また忙しさにかまけて日頃の生活が単純にならないようにと牛乳料理講習会や、魚食料理講習会を行い、食生活にも万全の注意を払っています。

（３）働きやすい作業着の工夫

私達婦人部は、１０年前のモデルグループの活動の紹介の中で雨傘の布を利用した防水性と軽さ、丈夫さに富んだ作業着の活用を発表しましたが、この作業着が快適で、安全な「のり作業」に適していることが解り、その後も毎年、共同購入を続けています。最初の数年間は、組合の会議室で共同作製していましたが、この頃は、部員それぞれが縫製しています。漁業組合全体に波及でき男性の愛用者もでています。

１，０００円前後だせばホームセンターで買える時代ですが、市販のヤッケは、肩が張る、ほつれ易い、デザインが一定などの理由から、自分で縫製することは、手間がかかりますが、７５％の人が活用しています。

１０年間の間に工夫して改善した箇所は、①フードをつけず襟にしている。②ポケットの形や付け方を工夫している。③ファスナーを無くしてかぶりにしている。その他袖口のゴムを二重にしている等自分流に改善されています。これは１０年間継続した結果、いまで

は、生活の一部になっています。

作品の一部を後ほどお見せいたします。

6　波及効果

私達婦人部は、鬼崎内の婦人部活動にとどまらず、広く活動しようと話し合っていたとき、鳳来町の「のーまんばざーる荷互奈」からお誘いをいただき海と山の交流会を実施しました。荷互奈の「食菜館」で山の幸をふんだんに、また私達は、海の幸のアナゴ、シャコ、のり、えび料理を披露し、鬼崎ののりの美味しさを知ってもらいました。その後直売所のイベントでは、鬼崎の「味付けのり」を販売することができました。

また、その時雨傘の布の作業着を披露したところ、農作業や自転車で直売所に荷物を納めるとき着用したいと言われ、布の入手方法や型紙や縫製の仕方も指導してきました。その後を伺うと、やはり共同で３０着作製されたそうです。初めて交流をしましたが、私達の活動が山でも広がり、また、山の清い水が私達の海を潤わせ生活の糧になると実感しました。

7　今後の課題や計画と問題点

中部国際空港の問題をかかえ、今後のりにどんな影響がでるか予測されませんが、今後も、鬼崎の美味しいのりつくりのために、環境を克服して、高齢になっても続けられる、快適で安全な作業環境を作って行きたいと思っています。

これは、夢かもしれませんが、協業化しそれぞれが自分のできることを分担し、厳しいなかでも夢の持てる漁業を続けたいと思っています。

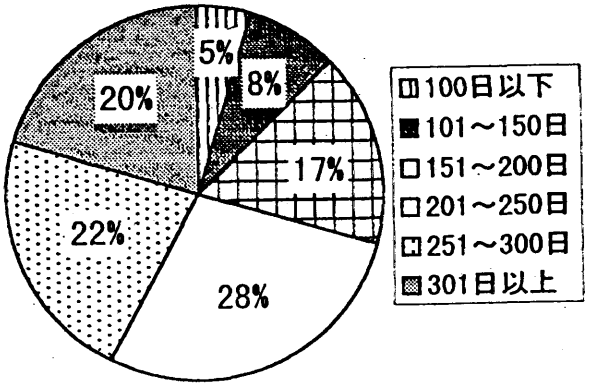

図２　年間就労日数割合

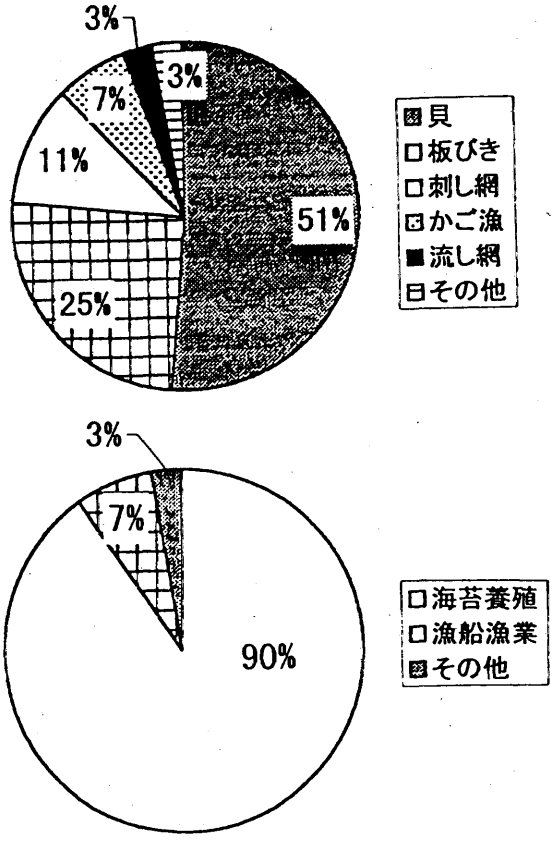

図３　漁業内容割合（上：夏場、下：冬場）

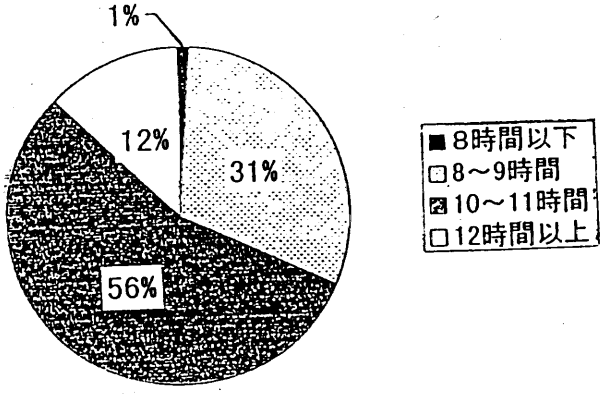

図4　1日平均作業時間

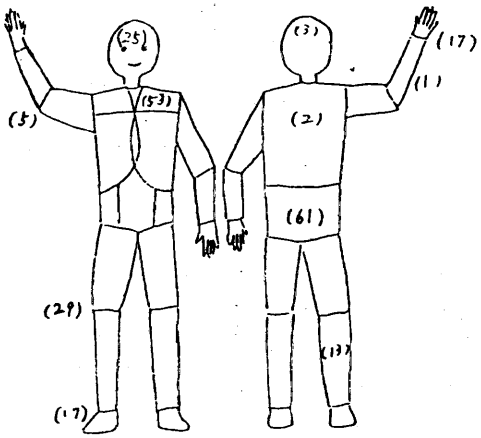

図5　のり作業中の疲労部位

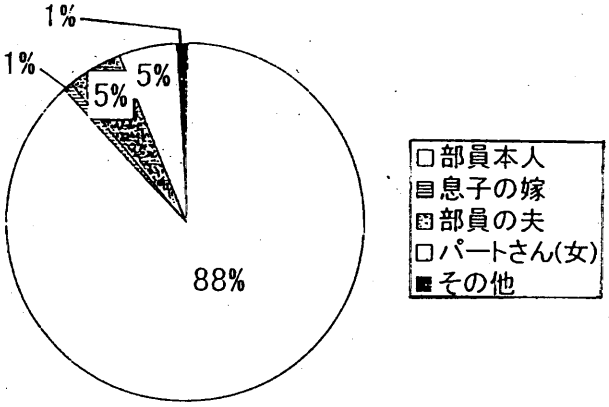

図6　海苔加工における抄く人の内訳

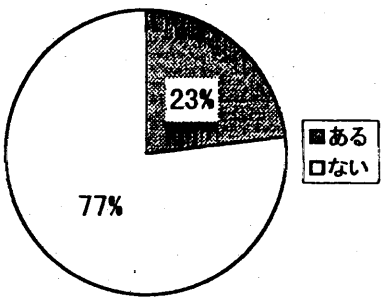

図7 平成元年からのけがの割合

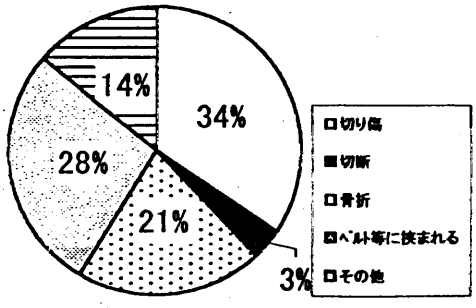

図8　けがの内容

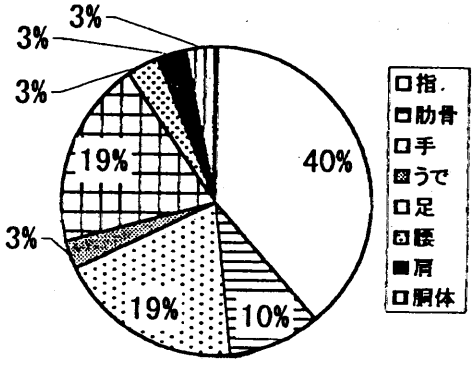

図9　けがの部位の割合